

ニュースレボ

——新聞から拾う医界の周辺あれこれ——

<15. 7. 1~15. 7. 31>

7月4日

■禁煙がうまくいかないのは意志が弱いせいだけではなく、遺伝子の影響が大きいことが慶大医学部の山口佳博・助教授（呼吸器内科）と仲村秀俊助手らの研究チームが約330人の遺伝子を比較して研究結果を出し、分解能力の低い人の禁煙に成功する割合は能力の高い人の1/3程度と低く、失敗しやすいことが明らかに。

（朝日）

7月7日

■脳梗塞の患者に、本人の骨髄幹細胞を培養して静脈から注入し、症状を大幅に改善させる新しい治療技術の開発に、札幌医大の研究班が成功。（道新）

■心臓の筋肉（心筋）細胞の増殖にブレーキをかけている遺伝子を、三菱化学生命科学研究所の竹内隆主任研究員（発生生物学）らがマウスを使った実験で究明。（毎日）

■若い女性の子宮けいがん患者が、最近10年で4倍に増えていることが、国立病院呉医療センター（呉市）の藤井恒夫産婦人科医長らの調査で明らかに。（読売）

■生まれつき心臓の構造がおかしい先天性心臓病の原因遺伝子を、東京女子医大先端生命科学研究所の松岡瑠美子講師（遺伝子医学）と米テキサス大の研究チームが究明。（読売）

7月8日

■心に深い傷を負ったあとにかかると思われる心的外傷後ストレス障害（PTSD）の発症に、脳の中の「前部帯状皮質」と呼ばれる部分がかかわっていることが、東大附属病院の山末英典医師と加藤進昌教授らの研究で明らかに。（毎日）

7月15日

■みそ汁や豆腐など大豆食品を多く食べる人は、乳がんの発症率が低いことが、約2万人の女性を対象にした厚生労働省研究班の調査で明らかに。（読売）

■傷ついた血管や皮膚、軟骨などの細胞を短期間で再生する働きのあるたんぱく質を、慶大医学部の尾池雄一講師（発生分化生物学）と須田年生教授（同）らの研究グループがマウスを使った実験で発見。（毎日）

■寝ている間に何度も呼吸が止まる睡眠障害「睡眠時無呼吸症候群」の症状が、ある種の抗うつ薬で軽減することが、米イリノイ大グループの研究で明らかに。（読売）

7月19日

■肺がんの抗がん剤「イレッサ」（一般名ゲフィチニブ）の副作用で、間質性肺炎・急性肺障害が起きる割合は、これまで厚生労働省が発表していた2.2%よりやや高い3~4%に達し、とくに男性の喫煙者では5%を超えることが専門医グループの調査で明らかに。（毎日）

7月24日

■脳死した人の舌を、舌がんに苦しむ患者に移植する世界初の手術が、オーストリアのウィーン総合病院で行われ、患者は順調に回復していることが明らかに。（読売）

7月31日

■理化学研究所播磨研究所（兵庫県三日月町）と科学技術振興事業団は筋肉を動かすスイッチとして働いたたんぱく質の立体構造を究明。

（日経）